

これまでの札幌での道路空間の使い方……



赤レンガ前にぎわいづくりオープンカフェ

（道路の活用にはふだんの魅力を高めるだけでなく、道路をいっばいを使ってにぎわいを生み出す取り組みもあります）

赤レンガ前にぎわいづくり社会実験

札幌市では社会実験として、道庁赤レンガ前でオープンカフェを実施しました。

期間中、市民ボランティアの協力で、演奏会や大道芸、ストリートウェディング、児童の絵画展を行うとともに、これまで認められていなかった飲み物や地元農産物の路上

販売なども行いました。

実験の結果、多くの方がカフェを利用されたほか、このような公共空間に関するアンケートでは、7割以上の方が賛成するなど、オープンカフェに高い評価を得ることができました。



ストリートウェディング

さっぽろプロムナード

30年以上の歴史をもつ「さっぽろプロムナード」は、民間主体による道路活用先の先駆的な例です。

毎年6月～9月の週末、札幌駅前通と南1条通の歩行者天国でさまざまなイベントが開催されており、夏の風物詩として市民に親しまれています。

市民アンケートでは、多くの方が歩行者天国は知っていて、今後の継続を望んでいます。今後は市民参加の機会を増やすなど、より市民に親しまれるものにしていくことや、活動資金の確保などが課題となっています。



市民音楽祭～プロムナード

南1条広場化プロジェクト

民間が主体となった道路活用の実験も少しずつ進んでいます。

南1条地区開発事業推進協議会では、南1条通を使って、オープンカフェをメインとした広場化実験などを行い、都心のにぎわいづくりを進めています。



オープンカフェ～南1条通

札幌中心街にぎわいづくり さっぽろちゅうしんぐわい

(札幌中心倶楽)

地元の商店街、青少年女性活動協会、商工会議所などが中心となった札幌中心倶楽でも、都心の道路を使ったにぎわいづくりを進めています。

都心のさまざまなイベントを市民に分かりやすく提供したり、これまでのイベントの質を高めるために新たなパフォーマンスを仕掛けるなど、都心の魅力アップに向けた取り組みを進めています。



だいどんでん(ストリートパフォーマンス～プロムナード)

もっと魅力を高めるために

市民みんなの財産である道路を魅力的なものとするためには、ふだんからの活用を大切にするとともに、その質を高めていくことも必要です。では、この「質」を高めるためにはどのようなことに取り組みばよいのでしょうか？そのキーワードは「札幌らしさ」にありそうです。

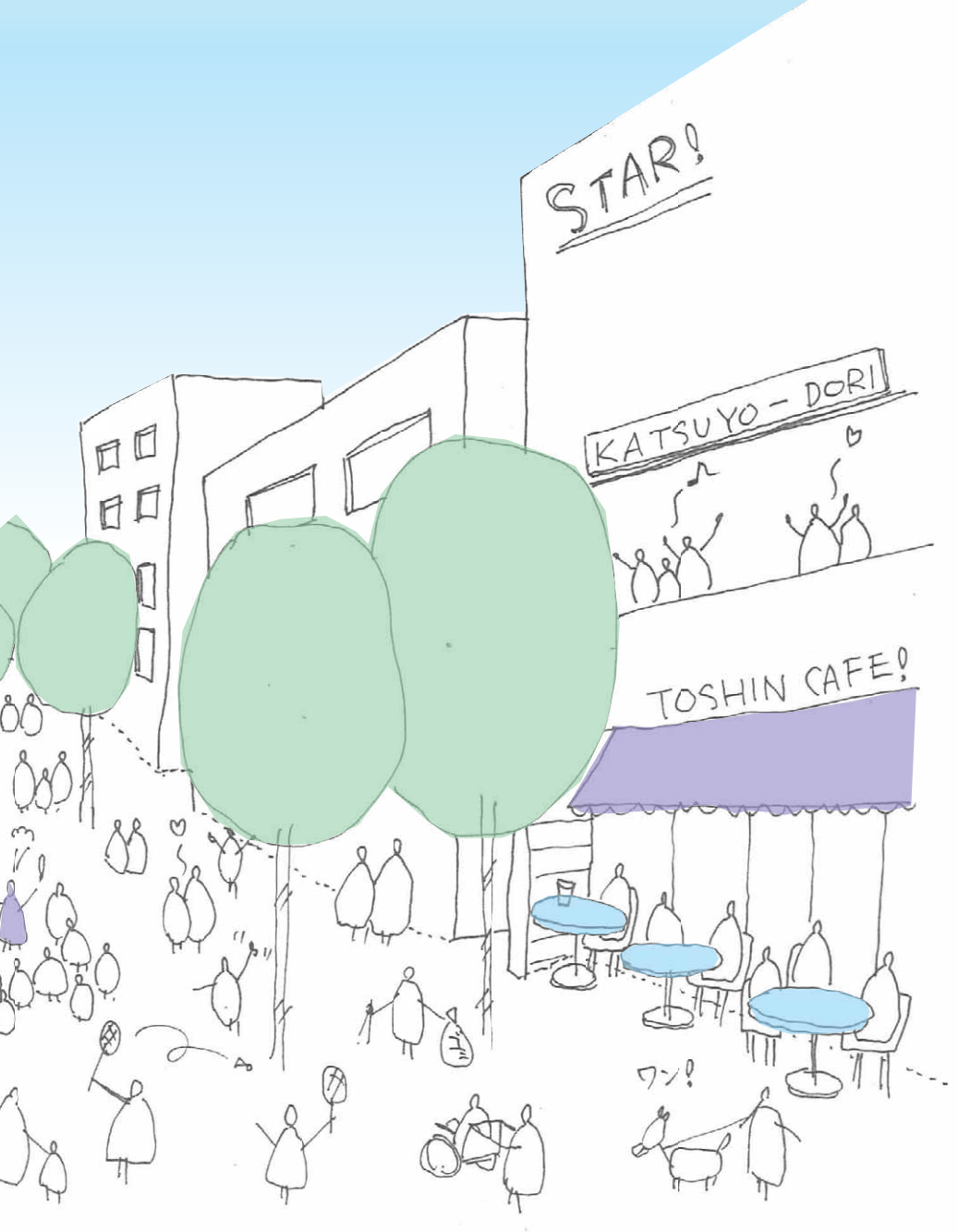
札幌らしい道路づかいとは・・・

現在、国内各都市でさまざまな道路活用が進められています。例えば、仙台市や横浜市では都心の美しい公園などと一体となった道路活用が行われており、それらは多くの人を引き付け、まちに活力を与えています。

それでは、札幌にふさわしい、札幌らしい道路づかいとはどのようなものでしょう？

札幌は、鮮明な四季の移り変わりが見られる美しいまちです。

さわやかな風の中の路上コンサート、抜けるような青空の下のフリーマーケット、時計台や道庁などの歴史的建物の側で紅葉を見ながらのオープンカフェ、粉雪が舞い落ちる中で飲むホットワイン……。このように、移るいく季節の色をとらえそれを魅力として取り込むことが、札幌らしい活用の一つなのかもしれません。



また、札幌には、キタラヤモエレ沼公園、芸術の森といった施設があり、市民のオーケストラである札幌交響楽団もあります。これらは市民に優れた芸術文化にふれる機会を提供し、私たちの生活の質を豊かにしてくれています。

こうした文化的な環境で育まれた感性や視点・資源を生かしながら、道路活用を進めていき、そしてその質を高めていくことができれば、札幌はもっと魅力あるまちになるでしょう。

豊かな自然環境や人など、今ある財産を十分に活かし、そして、市民と行政が連携して道路活用に取り組むことが、札幌らしい新しい道（みち）文化を生み出していくのです。

札幌らしい道路活用のメニュー例

- ・春夏秋冬、季節ごとにその雰囲気を変えるオープンカフェ
- ・誰もがまちを楽しく歩き、誰もがゆったりと休める緑豊かな休憩の場
- ・多くの市民が楽しく活動できるパフォーマンスの場
- ・新鮮な野菜など、おいしい札幌の特産物を販売するマーケット
- ・流行発信地さっぽろからのファッション・ショー
- ・伝統的な祭りや新しいお祭りの融合や発展の場

